

教育と福祉の融合

(子育て施策の教育委員会への一元化)



大阪府箕面市の概要

- 人口：約13万6千人
(うち 0～18歳：約2万7千人)
- 面積：4,790ha
- 市制施行：昭和31年

大阪市内から
電車・車で20分の好立地



小・中学校の状況 (市内公立)

	学校数	児童生徒数
小学校	14校	8,870人
中学校	8校	3,790人
計	※ 20校	12,660人

※施設一体型小中一貫校(2校)を含む。
※令和3年(2021年)4月1日現在

緑豊かな街並みが魅力の住宅都市

住みよさ
ランキング 7年連続
大阪府内 **第1位**



●就学前教育・保育施設の利用状況

	園・所数 (単位：園・所)	0～5歳の人数 (単位：人)
公立保育所	4	474
民間保育所	24	1,845
小規模保育所	8	114
公立幼稚園	4	159
私立幼稚園（市内）	2	407
私立幼稚園（市外）	20	613
私立認定こども園（市内）	6	960
私立認定こども園（市外）	20	443
在宅・認可外等		2,286
計	88	7,301

※令和3年（2021年）5月1日現在

教育と福祉の融合

箕面市では、平成17年、平成28年、平成30年の3度にわたり、組織を改編しました。
 そのねらいは、市長部局と教育委員会に分かれていた**子ども関連の施策を教育委員会に一元化**することです。
 (幼稚園・小中学校が教育委員会固有の事務のため、市長部局への一元化はできない。一元化が可能なのは教育委員会のみ。)

平成17年4月

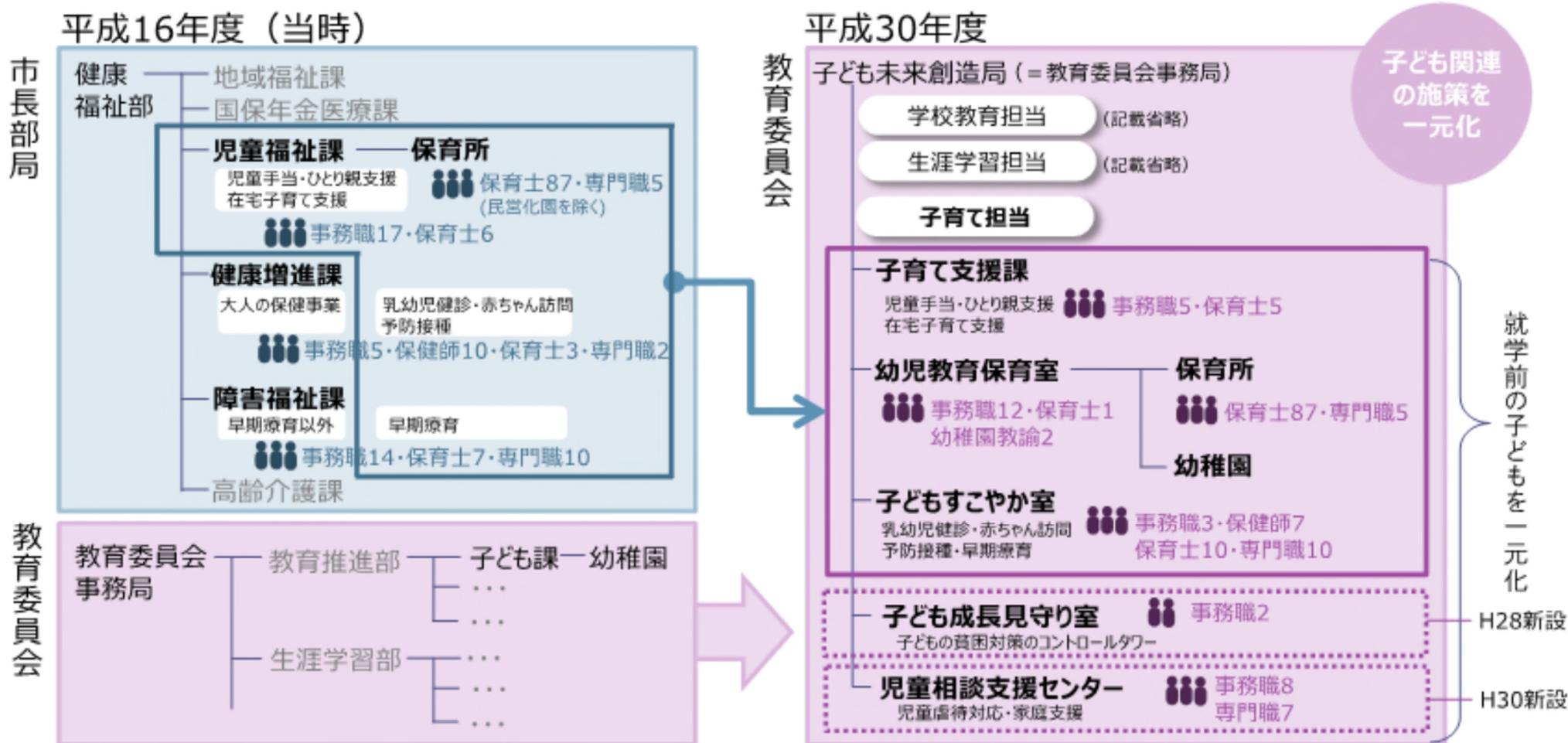
保育所、子育て支援センター、
 児童手当業務を市長部局から
 教育委員会に移管。

平成28年4月

教委に「子どもすこやか室」を設置、
母子保健事業を市長部局から
 教育委員会に移管。

平成30年4月

児童虐待に特化した組織「児童相談
 支援センター」を創設、教育委員会の
 子育て担当部門に位置付け。



教育と福祉の融合の効果

市長部局と教育委員会に分かれていた子ども関連の事業を教育委員会に集めたことにより、これまで断絶していた教育と福祉の世界が「子ども」をキーに融合し、子育て支援と母子保健の融合が進んでいます。

「就学前の子ども」を一元化したことで、すべての0～5歳児を教育委員会で一元的に見る体制へ

幼稚園
2,713人

+

保育所
2,868人

+

在宅保育
1,695人

=

7,276人

※令和3年(2021年)3月31日現在

乳幼児健診を子育て支援の場に

1歳6か月健診は、94%の子どもが一堂に集まる場です。これまで保健師だけで運営してきた健診を、企画段階から保育士も関わり、ともに実施しています。



保育士が接触機会を持っていた在宅子育て中の親子の数

子育て支援センターに
自ら来ていた親子のみ

→

1歳6か月健診に
来る親子すべて
(受診率 94%)

能動的に出かけてくる人だけでなく、在宅子育ても含めてほとんどすべての親子に接触機会が持てる

健診の場で行う子育て支援

- * 子どもの年齢に応じた親子遊びの紹介
- * 親子の関わり方や育児負担の軽減のアドバイス
- * 子育てひろばなど、子育て支援の場への誘い掛け

子育て支援に母子保健の目を

子育て支援センターや子育てひろばは、これまで保育士を中心に開催していましたが、現在は保健師がともに実施しています。



保健師が子育て支援の場で接することができた親子の数

約1,080組/年

子育てひろばで行う母子保健

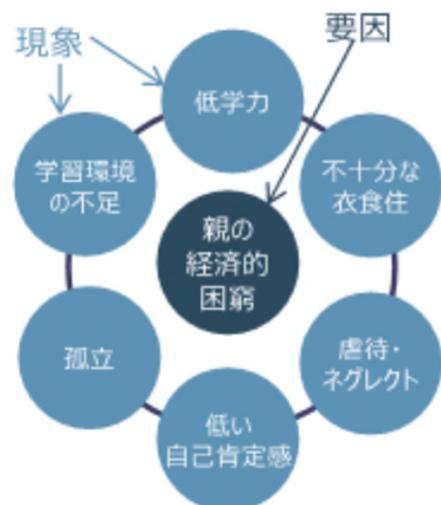
- * 子どもの健康相談、発達相談
- * 保健師による子どもの体のチェックや身長・体重測定
- * 熱中症対策やインフルエンザ予防などの健康教育

高度な専門的知見を持つ保健師などの専門職が、健康・福祉の領域にとどまらず、子育て支援全般に力を発揮できる

「子ども成長見守りシステム」の構築

これまでの箕面市では、子どもの情報も、子どもの家庭に関する情報も、各学校や行政の様々な部署に散在していました。子どもたち一人ひとりを大人になるまで見守り続けるためには、散在する情報を集約し、子ども個人に結びつけ、その情報を過去分から蓄積し、変化を追跡できるデータベースの構築が必要でした。

情報には、①親の経済的困窮を推定できる情報
②経済的困窮を要因として発生している現象 の2種類があります



子どもの状況は見えるが
根本にある貧困が見えない情報

- 現象**
- 学力・体力調査結果
 - 生活状況調査結果
 - 日常の行動・衣服などの状況
 - 学校健診・乳幼児健診の結果
 - 虐待に関する通報・対応状況

家庭の困窮は推定できるが
子どもの状況が見えない情報

- 要因**
- 生活保護の受給状況
 - 児童扶養手当の受給状況
 - 保育料算定時の所得状況
 - 給食費の滞納状況
 - 就学援助の受給状況

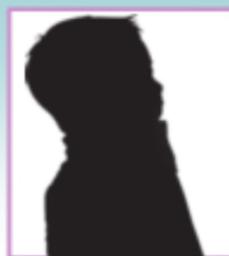
子ども個人をキーに
名寄せすると…

見守りが必要な
子どもが見えてくる
(経済的困窮)

支援が必要な
子どもが見えてくる
(経済的困窮 + 子どもの変化)

支援を受けている子どもの
現況がわかる
(親の状況 + 子どもの状況)

支援を受けている子どもの
経年変化を追跡できる
(子どもの変化 + 集団の変化)



A君の
データ

学年	学力調査	生活状況調査	学校健診	虐待通報	担任観察	生活保護	就学援助
小1	+5	±0	異常なし	なし	問題なし	非該当	受給
小2	+2	△5	異常なし	あり・経過観察	要観察	非該当	受給
小3	△8	△10	発育遅れ	あり・対応	問題あり	受給	受給
小4	△9	△8	発育遅れ	なし・経過観察	問題あり	受給	受給

(子ども成長見守りシステムの画面サンプル)

個人カルテ

個人番号	世帯番号	氏名	ふりがな	性別	生年月日	住所
1234567890	01234567	田中 太郎	たなか たろう	男	2010年1月1日	東京都千代田区
年度年齢	消除日	保育施設/幼稚園	小学校/中学校	高校/大学/就職	判定指標のみ	全体
2023		ABC保育園	DEF小学校			

判定指標 | 履歴等 | 施策利用状況

年度年齢	就学前						小学校						中学校			高校等				
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	
年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
前期後期	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
総合判定			III	II	III	III	I	I	I	I	I	I								
ケース会議状況(クリックで直接判定)										
生活困窮 (物的資源の欠如)																				
経済的困窮	生活保護																			
	児童扶養手当(ひとり親)																			
	就学援助																			
	非課税階層																			
学力	国語																			
	算数・数学																			
	社会																			
	理科																			
	英語																			
	全教科の平均偏差値																			
	平均偏差値の変化値																			
	読書量																			
健康・体力 (ヒューマンキャピタル の欠如)	朝食の有無																			
	虫歯治療勧告後の状態																			
	健康チェック																			
	身長																			
	体重																			
	体力総合偏差値																			
体力総合偏差値の変化値																				
非認知能力等判定																				
総合判定			III	II	III	III	I	I	I	I	I	I								

(前提) 子どもたちの状況をできる限り把握し続けるために

「箕面市ステップアップ調査」による学力等の悉皆調査

【参考】

子ども成長見守りシステム構築の環境

箕面市では、平成24年度から、小学1年生～中学3年生まで **全9学年**で、**毎年**、子どもたち一人ひとりの状況を、全方面(学力・体力・生活)について調査・把握しています。

この調査があるからこそ、支援の効果を「学力」や「生活状況」の定量的な“変化”で客観的に測ることが可能になります。

ステップアップ調査の実施学年と調査項目

● 市の独自調査

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
		(小1)	(小2)	(小3)	(小4)	(小5)	(小6)	(中1)	(中2)	(中3)
学力調査	全国学力学習状況調査						● 2教科			● 3教科
	学力調査	● 2教科	● 2教科	● 4教科	● 4教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	● 5教科	
	英語能力判定テスト									●
体力調査 (●は全国調査に参加)	● 3種目	● 3種目	● 3種目	● 5種目	● 8種目	● 8種目	● 8種目	● 8種目	● 8種目	● 8種目
生活状況調査	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

調査項目

- ① 家族のささえ
- ② 友達のささえ
- ③ 先生のささえ
- ④ 成功体験と自信
- ⑤ 充実感と向上心
- ⑥ 感動体験
- ⑦ 他者からの評価
- ⑧ 規範意識
- ⑨ 思いを伝える力
- ⑩ 問題解決力

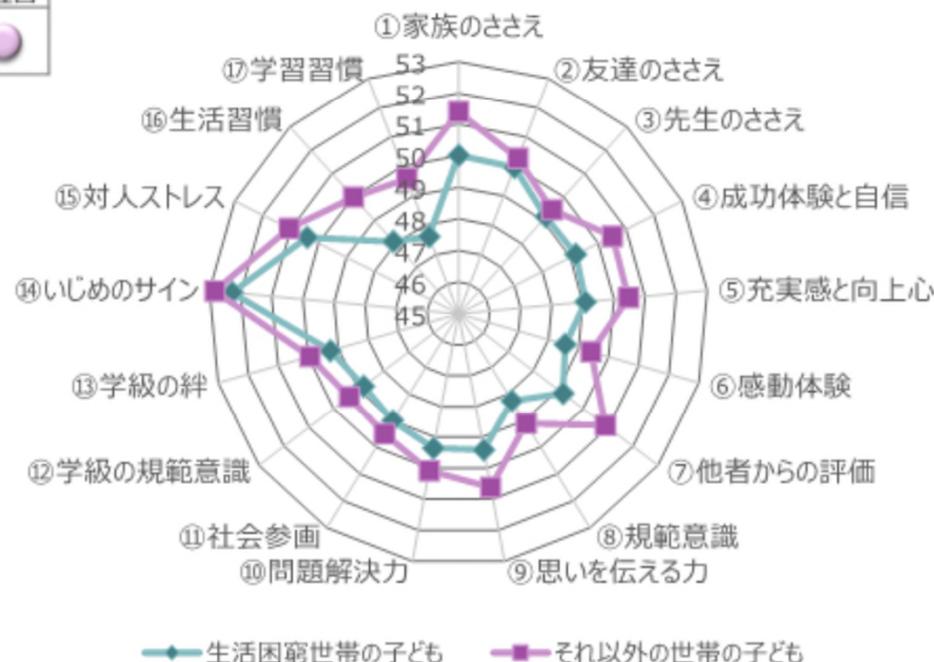
- ⑪ 社会参画
- ⑫ 学級の規範意識
- ⑬ 学級の絆
- ⑭ いじめのサイン
- ⑮ 対人ストレス
- ⑯ **生活習慣**
- ⑰ 学習習慣

(分析の一例)

生活状況調査の肯定率を生活困窮世帯の子どもとそれ以外の世帯の子どもで比較

- ・朝食を食べているか
- ・朝は自分で起きられるか
- ・学校に持っていくものを前日に確かめているか
- ・毎日同じくらいの時刻に寝ているか
- ・一日の遊ぶ時間を決めているか
- ・帰宅後に友だちと遊ぶことがあるか(その時は外で遊ぶか家で遊ぶか)

生活状況調査(2018年12月実施)
肯定率の偏差値平均



●中学校区キャリア教育・人権学習カリキュラム表

めざす子ども・・・将来、社会の中で自立し、共に生きる力のある子

	めざす子ども・・・将来、社会の中で自立し、共に生きる力のある子													
	仲間とつながる				社会をつくる				未来をひらく				部落問題学習 人権学習	
	自己および他者への積極的関心の形成・発展				身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成				夢や希望、憧れる自己イメージの獲得					
自分を見つめる	相手の思いを受け止める	表現力	コミュニケーション	役割と責任	社会参加	価値観	社会の仕組みを知る	将来を見通す	企画力	情報を読み解く	将来の人生・職業モデル			
具体的ねがい	・大切にされた体験を持つ。 ・社会的立場を認識する。 ・自意識を持つ。 ・ジェンダーによる固定化した意識を克服する。	・互いに生活を語り、思いを出し合うことで信頼関係を深める。 ・互いの価値観などの違いを知り、認め合う。	・自分からヘルプメッセージを出すことができる。 ・考えや主張を効果的に発表する。	・自分の気持ちに気づき、適切に表現する。 ・他者につながるためのスキルを獲得する。	・役割を果たすことで、自信と自己有用感を高める。 ・責任感をもって行動する。	・社会の出来事に関心をもつ。 ・主体的に社会に関わろうとする。	・多様な価値観があることを知り、多様性を受けとめる。	・社会の仕組みを知り、自分がどのような社会を築きたいか考える。	・周りの人との関係の中で、自分の生き方を考える。	・問題解決や自己表現につながるコミュニケーション力をつけ、協働する楽しさを味わう。	・自分に必要な情報を収集・選択し、生活に役立てる	・さまざまな人と出会い、将来を展望し夢やあこがれをもつ。	・差別に対する正しい知識と豊かな人権感覚、行動する姿勢を身につける。 ・人や地域、社会とつながることで自らの生き方を考える。	
つ け たい 力	中学校	自分を理解し、自己の生き方に誇りをもつ。	協力し信頼関係を深め、互いを尊重する	自分自身のことや生活を語り、豊かな表現力を身につける。	他者につながるスキルや社会性を身につける。	労働の意義を見出し、社会に貢献できる態度を養う。	社会の課題に関心を持ち、その解決にむけて、仲間とともに行動する。	多様な価値観があることを知り、認め合うことができる。	社会や経済の仕組み、さまざまな人権課題を知り、どんな社会を築きたいか考える。	中学卒業後の様々な進路やその進路実現に向けての道筋を知る。	見通しを持って準備を進める。	自分に必要な情報を収集・選択でき、メディアリテラシーを身につける。	職場体験やほかの人の生き方から学び、自分を見つめ直す。	差別を許さない態度を養い、地域・社会との関わりの中で、自分や地域を誇りに思い、生き方を考える。
	小学校高学年	自分にとって必要だと思うことを選ぶ。	お互いをしっかり理解し、信頼し合える仲間になる。	自分の考えを文で表したり、論理的に話したりする。	相手の立場に立って話し合う。	社会をよりよくするために、仕事を分担し、協力し合い、役割を果たす。	身の回りの課題に気づき、仲間とつながりながら、解決しようとする。	多様な考え方の中で、よりよいものを選択し、行動できるようにする。	社会にある人権課題を学び、自分の生き方をみつめる。	自分の適性に気づく。仕事や生き方について考える。	したいことや課題の解決に向け、効果的な解決策を考える。	情報の要点や問題点を見出すことができる。	様々な仕事や生き方、社会の仕組みについての情報やイメージを持つ。	差別の歴史を知る。地域の人から生き方を学ぶ。
	小学校中学年	自分のいいところを見つける。	友だちのいいところを見つけ、思いをわかろうとする。	自分の考えを文で表したり、発表したりする。	自分の気持ちを相手に伝える。	自分に与えられた役割に責任を持って取り組む。	地域・仲間とつながりながら身近なことから活動する。	友だちの思いや考えに気づき、お互いを尊重できる人間関係を築く。	地域や市内の施設見学や体験を通して、人々の願いや思いにふれる。	周りの人との関係の中で自分について考える。	自分たちで協力して解決策を考える。	情報の正確さを判断する。	身近な地域の人々の仕事や思いを知る。	地域のいいところをつける。地域の人の思いを知る。
	小学校低学年	自分の好きなことや嫌なことを知る。	友だちと仲よく遊び、助け合う。	自分の考えをみんなの前で話す。	ことばで気持ちを表現する。	係や当番の活動に取り組み、大切さが分かる。	身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心をもつ。	人にはいろいろな思いや考えがあることに気づく。	家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。	自分や友だちの成長に気づく。	友だちと話し合ったり、やりたいことを実現する。	情報の集め方を知る。	身近な人の仕事を知る。	地域との素敵な出会いをする。友だちのいいところを見つける。
	保育所・幼稚園	身近な人に愛着をもつ。	一緒に生活や遊びをする中で、お互いに共感し、違いに気づく。	自分で考えて行動し、思いを伝える。	生活や遊びに必要なことばを知り、使う。	自分の役割に責任をもって活動する。	地域について知り、地域活動に参加する。	友だちの様々な考えや思いを知る。	様々な仕事があることに気づく。	自分や友だちが好きになる。	自分の気持ちを出し、友だちと話し合う。	絵本・イメージ・ファンタジー等を楽しみ、友だちと共有する	自分の周りの仕事に興味をもつ。	地域の人と関わる。
	乳児期	身近な人に愛着をもつ				情緒の安定				安心して生活する・遊ぶ				

※大切にしたい観点・・・15年間を見通した人権カリキュラムの見直しと、とりくみを日々の生活につなげることを意識してとりくんでいく

●中学校区キャリア教育・人権学習カリキュラム表（単元表記）

めざす子ども 将来、社会の中で自立し、 共に生きる力のある子	仲間とつながる				社会をつくる				未来をひらく				部活問題学習 人権学習		
	自己および他者への積極的関心の形成・発展				身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成				夢や希望、憧れる自己イメージの獲得						
	自分を見つめる	相手の思いを受け止める	表現力	コミュニケーション	役割と責任	社会参加	価値観	社会の仕組みを知る	将来を見通す	企画力	情報を読み解く	将来の人生・職業モデル			
具体的ねがい	・自分が大切にされた体験を持つ。 ・自己の社会的立場を認識する。 ・自意識を持つ。 ・ジャンナーによる固定化した意識を克服する。	・自分の生活や気持ち、仲間への要求と動かしを出し合うことで、信頼関係を深める。 ・互いの価値観などの違いを知り、認め合う。	・自分からヘルプメッセージをだすことができる。 ・自分の考えや主張を効果的に発表する。	・自分の気持ちに気づき、適切に表現する。 ・他者とのつながるためのスキルを獲得する。	・役割を果たすことで、自信と自己有用感を高める。 ・責任感をもって行動する。	・社会の出来事に関心をもつ。 ・主体的に社会に関わろうとする。	・多様な価値観があることを知り、多様性を受けとめる。	・社会の仕組みを知り、自分がどのような社会を築きたいか考える。	・周りの人との関係の中で、自分の生き方を考える。	・問題解決や自己表現につながるコミュニケーション力をもつ。 ・自分に必要な情報を収集・選択し、自分の生活に役立てる。	・さまざまな人と出会い、将来を展望し夢やあこがれをもつ。	・差別に対する正しい知識と豊かな人権感覚と行動する姿勢を身につける。 ・人・地域・社会とつながることで自らの生き方を考える。			
保育所・幼稚園	目標	身近な人に愛着をもつ。	一緒に生活や遊びをする中で、お互いに共感し、違いに気づく。	自分で考えて行動し、思いを伝える。	生活や遊びに必要な言葉を知り、使う。	自分の役割に責任をもって活動する。	地域について知り、地域活動に参加する。	友だちの様々な考えや思いを知る。	様々な仕事があることに気づく。	自分や友だちが好きになる。	自分の気持ちをだし、友だちと話し合う。	絵本・イメージ・ファンタジー等を楽しみ、友だちと共有する。	自分のまわりの仕事に興味をもつ。	地域の人と関わる。	
	単元名	当番活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		さまざまな人と関わる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		園所や地域の行事に参加	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		異年齢交流	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ごっこ遊び		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
小学校低学年	目標	自分の好きなことや嫌なことを知る。	友だちと仲よく遊び、助け合う。	自分の考えをみんなの前で話す。	ことばで気持ちを表現する。	係や当番の活動に取り組み、大切さが分かる。	身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心をもつ。	人にはいろいろな思いや、考え方があふことに気づく。	家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。	自分や友だちの成長に気づく。	友だちと話し合っ、やりたいことを実現する。	情報の集め方を知る。	身近な人の仕事を調べる。	地域との素敵な出会いをする。友だちのいいところをみつける。	
	単元名	お誕生会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		学校たんけん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		たなばたまつり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		公園たんけん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		新入生を迎える会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		もうすぐ2年生	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		スピーチ大会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		仕事名人になろう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		学習発表会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		今どんな気持ち	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		異年齢交流	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		1年生を招待	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		学校たんけん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		まちたんけん	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スピーチ大会		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
学習発表会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
異年齢交流	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
大きくなったわたし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
小学校中学年	目標	自分のいいところをみつける。	友だちのいいところを見つけて、思いをわかろうとする。	自分の考えを文で表したり、発表する。	自分の気持ちを相手に伝える。	自分の与えられた役割に責任を持って取り組む。	地域・仲間とつながりながら身近なことから解決に向けて活動する。	友だちの思いや考えに気づき、お互いを尊重できる人間関係を築く。	地域や市内の施設見学や体験を通して、人々の願いや思いにふれる。	周りの人との関係の中で自分について考える。	自分たちで協力して解決策を考える。	情報の正確さを判断する。	身近な地域の人の仕事や思いを知る。	地域のいいところをみつける。地域の人の思いを知る。	
	単元名	異年齢交流	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		箕面市探検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		昔の箕面を知ろう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		児童会まつり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		スピーチ大会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		学習発表会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		お店・施設調べ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		障がい者理解学習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		二分の一人式	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		スピーチ大会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		児童会まつり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		環境学習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		学習発表会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		異年齢交流・クラブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

異文化体験を英語教育につなぐ

育てよう英語の木 グローバルの木

箕面市英語教育 CAN-DO リスト

- 箕面市英語教育の目標**
- ◇英語独特の表現方法を知る。
 - ◇英語で自分の考えが表現できる。
 - ◇資料や情報をもとに得た知識や、自分の意見を英語で効果的に伝えることができる。
 - ◇英語で友だち、先生とつながる。世界とつながる。



「触れる」
就学前
Pre-School

- 英語を用いて友だちや先生と関わるのが楽しいという体験をする。
- 歌やゲーム等の体験的な活動を通して英語の音声や基本的な表現に触れる。



「慣れ親しむ」
小学校低学年
E. S. Grade 1, 2

- 英語を用いて友だちや先生と関わるのが楽しいという体験をする。
- 歌やゲーム、体を使う等体験的な活動を通して「聞くこと」「話すこと」に慣れ親しむ。
- 英語を通じて、身近で簡単なことについて自分の考えや気持ちなどを伝えることができる。
- アルファベットに慣れ親しむ。



「伝える」
小学校中学年
E. S. Grade 3, 4

- 英語を用いて友だちや先生と関わるのが楽しいという体験をする。
- 歌やゲーム、買い物、ピザやグリーティングカードを作る等の体験的な活動を通して、日常的によく使われる表現に慣れ親しむ。
- 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。
- アルファベットの音のルールに気づく。



「伝え合う」
小学校高学年
E. S. Grade 5, 6

- 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。
- 自分のこと、好きなもの（こと）等の身近なことについて、英語で質問したり答えたりすることができる。
- 「読むこと」「書くこと」に慣れ親しみ、英語の文構造に興味を持つ。



「発信する」
「つながる」
中学校
Junior High School

- 買い物や道案内など、目的を達成するために、英語を用いて会話を行うことができる。
- 身近なことや、関心のある話題について、話すことを予め準備することなく会話を続けることができる。
- ニュースや説明文、データ等の情報を読みとり、気づいたことや自分の考え等を、英語で効果的に聞く人に伝えることができる。

主体的、積極的にコミュニケーションをはかろうとする態度を養う / 言語や文化についての理解を深める / 「聞く」「話す」「読む」「書く」4技能をバランスよく高める

まとめにかえて

- 教育と福祉の融合
- エビデンスに基づく施策展開

- まずは、子どもをド真ん中に
- 切れ目なく
- もれなく
- 「連携」ではなく
- とにかく意識改革を！